様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３３９２３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４５２０９２７

研究課題名（和文）昭和初期の民俗学・口承文芸研究と隣接諸科学との影響関係についての基礎的研究

研究課題名（英文）The basic study on the mutual relationships between folklore,oral-literature and ajacent sciences around 1930.

研究代表者
高木　史人（Takagi, Fumito）

名古屋経済大学・人間科学系・教授

研究者番号：７０３２９８４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：この研究の目的は、第一に昭和初期の民俗学・口承文芸研究の黎明期に、隣接諸科学と民俗学とがどのような関係をきり結んでいたかを研究史として明らかにすることにある。第二に、第一の研究から得られた成果をもとにして、将来の民俗学・口承文芸研究の可能性を探ることにある。その結果、分かった成果の一つを紹介する。昭和初期の口承文芸、とりわけ昔話研究は方言研究と密接な関連を持って進められていたが、それともう一つ、博物学との連携が明らかになった。たとえば、結城次郎（1892－1945）は昆虫採集活動と民俗採集・昔話採集活動とを同時に行なっていた。人文学と自然科学とを同時に行なうことが研究を実り多いものにしていた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is, primarily, to clarify what kind of relation the folklore and its close sciences had each other at the dawn of the studies of folklore and oral literature of the early Showa period.Second purpose is, based on the result obtained from the above, to seek the possibilities of the future of these studies.The early study of oral literature, in particular folktale of the early Showa period advanced closely related with dialectology and the another cooperation with the natural history became clear.For example, Jiro Yuki(1892-1945) was engaged in collecting of insects, and that of folklore and folktale at the same time.Studies yielded a rich harvest by engaging in the humanities and the natural sciences together.

研究分野： 民俗学

キーワード： 民俗学　博物学　言語学　民俗芸術論　雑誌「掃苔」　方言誌　結城次郎　橘正一

１．研究開始当初の背景

わが国の民俗学や口承文芸研究の学問形成期と目される昭和初期の研究史が柳田国男を中心に構成され、柳田以外による周辺諸科学との関係が充分に検討されてこなかったという背景がある。

２．研究の目的

研究の第一として、昭和初期の研究史を柳田以外の研究者や研究会、雑誌等の活動を掘り起こし、今では忘れられた可能態としての民俗学・口承文芸のあり方を探るとともに、それらの将来における研究に資する糧とする。

３．研究の方法

文庫調査、フィールドワークを中心に行なう。

４．研究成果

この研究の結果、たとえば昭和初期の口承文芸、とりわけ昔話研究は方言研究と密接な関連を持って進められていたが、それともう一つ、博物学との連携が明らかになった。たとえば、高木が調べた國學院大学方言研究会から刊行された『方言誌』の調査、岩手県盛岡市から雑誌『方言と土俗』を刊行した橘正一の調査、前出『方言誌』22 号に「北高来郡昔話集」を掲載した結城次郎の調査では、いずれも「方言」を媒介として、昆虫や植物、鳥獣類にまつわる民俗学と博物学とを合わせて採集し、考察する態度が目立った。このような姿勢は、粘菌類の研究と民俗学とを併せ行なった南方熊楠一人の特色ではなく、広く当時の研究者の間で行なわれていたことだった。人文学と自然科学とを同時に行なうことが研究を実り多いものにしていた。このような自然科学との連携には柳田国男も一役買っていた。柳田は自然科学と人文額とを「方言」を触媒として結びつける手法を用いていたといえる。そうして、この手法は将来の民俗学や口承文芸研究の可能性を切り開く手法であると考えられる。特にこの考え方を現行の「伝統文化」教育(2006 年に改正された教育基本法の元で教育の目標に「伝統文化」を教えることが盛り込まれた)のあり方を関連づけて考えることもち一方策であると考えられる。

この他、各研究分担者によって、それぞれの専門とする領域から隣接諸科学との関係が探られた。川村邦光は昭和初期の民俗学周辺の事象として、昭和初期の宮沢賢治の『銀が鉄道の夜』の分析を行ない、それが折口信夫の民俗学と通底することについても言及している。あるいは、宮沢賢治の教えを受けた松田甚次郎の活動についての分析を行なった。菊地暁は京都における民俗学の動向や南方熊楠の英文論考の分析を行なった。

土居浩は墓制、葬制の近代における展開を調査したが、特に雑誌『掃苔』関連の写真資料を新たに発掘・入手したので、今後の新たな展開が大いに期待できる。

真鍋昌賢は「口頭芸」という真鍋により拓かれつつある領域を構想して、昭和初期の事例「味談」「漫訪」などを新たに発掘紹介している。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 26 件）

(1)高木史人「「肖像と伝説―市橋鐸・林輝夫師弟における内藤丈艸像蒐集から―」『口承文芸研究』36 号,頁 41－53(2013).

(2)高木史人「小学校国語・昔話教材の指導法へ 覚書―光村図書版『こくご一上』所収「おむすびころりん」、同『こくご一下』所収「まのいいりょうし」を素材にして―」『人文科学論集』92 号,頁 1－28（2013).

(3)高木史人「考えるヒントとしての昭和初期―シンポジウムをふり返って―」『口承文芸研究』37 号,頁 179－182(2014).

(4)高木史人「幼稚園・保育所の言葉指導と小学校国語科指導とに必要な「昔話」の知識について―特に児童文化論及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の視座から－」『人文科学論集』94 号,頁 1-18(2015).

(5)高木史人「昔話を語るということ―幼児・児童に児童文化・伝統文化としての昔話を「語り-聴き」するための覚悟について、あるいは言葉と昔話との関係について―」『教育保育研究紀要』1 号,名古屋経済大学教育保育学研究会刊,頁 1-13(2015).。

(6)高木史人「「みんながカムパソルラだ」という眼差し」『イシバシ評論　文化/批評別冊』頁 140－145（2016）

(7)飯倉義之「回顧でも展望でもなく―二〇一二年／柳田國男没後五〇年の、二つの「柳田國男特集」書評―」『比較日本文化研究』16 号、頁 173～178（2013）

(8)飯倉義之「渋谷の三つのモノ語り」『月間みんぱく』39 巻 5 号、頁 6-7(2015)

(9)飯倉義之「口承文芸の落日、口承文芸の声」『歴博』191 号、頁 2-5(2015)

(10)川村邦光「四国遍路の途上にて」『日本オーラルヒストリー研究』16 号、頁 7－30（2012)

(11)川村邦光「災厄と弔いを巡る断想」『治療の声』17 号、頁 13－20

(12)川村邦光「家族写真の展開と表象」『文化／批評』2012 年冬季臨時増刊号、頁 11－39（2012)

(13)川村邦光「富士山の近代とディスクール」『現代思想』40 巻 14 号、頁 64-76(2013)

(14)川村邦光「ジョバンニと弔いのイニシエーション―「みんながカンパネルラだ」考―」『文化／批評』冬季臨時増刊号、頁 3－178（2015)

(15)川村邦光「川村邦光「乙女」三部作を語る」『イシバシ評論　文化/批評　別冊』頁 63－74（2016）
(16)川村邦光「賢治の弟子 松田牢甚次郎論－農と農民劇の実践」『文化/批評』冬季臨時増刊号、頁 3－112（2016）
(17)菊地暁「主な登場人物 2－京大文化史学派における『先祖の話』受容－」『日本民俗学』276 号、頁 52-68(2013)
(18)菊地暁「川村先生に善導いただいた(のかもしれない)民俗写真研究について」『イシバシ評論　文化/批評　別冊』頁 370－373（2016）
(19)菊地暁「『郷土研究』と甲寅叢書－南方英文論考と日本の民俗学」『熊楠研究』10 号、2016
(20)土居浩「ことはそれだけではないだろう－高取正男の読み方思案－」『日本民俗学』276 号、頁 93-102(2013)
(21)真鍋昌賢「特集について」『比較日本文化研究』15 号、頁 7－15（2012）
(22)真鍋昌賢「「語り物」から〈口頭芸〉へ」『日本民俗学』270 号、頁 128－145（2012）
(23)真鍋昌賢「古川緑波の「食談」－洋食受容史の一断面として」『イシバシ評論　文化/批評　別冊』頁 403－409（2016）
(24)真鍋昌賢「大衆芸能として 伝統芸能として」『上方芸能』199 号、頁 50-51(2016)
(25)真鍋昌賢「【特集 口頭芸研究の可能性】特集について」『比較日本文化研究』18 号、頁 7-15(2016)
(26)真鍋昌賢「芸としての「漫訪」－『主婦之友』と大辻司郎」『比較日本文化研究』18 号、頁 29-48(2016)

〔学会発表〕（計 13 件）
(1) 高木史人「「肖像と伝説―市橋鐸・林輝夫師弟における内藤丈艸像蒐集から―」『口承文芸研究』日本口承文芸学会第 36 回大会招待講演、犬山市福祉会館(2012-06-02)
(2) 「シンポジウム　口承文芸」「民俗」研究の可能性を問う―昭和初期からの照射―パネル
高木史人「橘正一の個人雑誌『方言と土俗』から見えること-「方言」研究と「口承文芸」研究との交差点として 」
菊地暁「〈ことばの聖〉@京都―新村出と民俗学的言語研究の交点―」　菊地暁（京都大学）
土居浩「雑誌『掃苔』に読む昭和初期「掃苔」趣味の諸相―その連続性と画期性について― 」
真鍋昌賢「「民俗芸術」の可能性と限界 」
川村邦光「コメント」
高木史人・司会
日本口承文芸学会第 37 回大会、江東区深川江戸資料館(2013-06-02))
(3)高木史人「「むかしばなしがいっぱい」か―〔伝統的な言語文化と日本語の特質に関する事項〕における昔話教材の指導法に向けて―」第 34 回日本文学協会研究発表大会、いわき明星大学(2014-07-12)
(4)高木史人「「採集」という連携－昆虫採集と昔話採集－」日本昔話学会 2016 年度大会、高千穂大学(2016-07-10)
(5)川村邦光「家族写真の展開と表象をめぐって」日本教育社会学会招待講演、同志社大学(2012)
(6)川村邦光「天皇写真と戦死者の遺影―「聖戦」の図像を読み解く―」日本史研究会・市民講演会招待講演、機関紙会館(2014-11-24)
(7)川村邦光「パネルディスカッション　「弔いと霊魂の行方」」佛教大学総合研究所 シンポジウム「冥界からの声を聴く―現代社会における宗教の力―」、佛教大学紫野キャンパス(2015-02-22)
(8)菊地暁「宗教史研究のフィールドワーク」日本宗教学会、皇学館大学(2012-09-09)
(9)菊地暁「いくつかの『先祖の話』－京都で読む柳田祖霊神学－」日本民俗学会談話会・京都民俗学会年会共催シンポジウム、佛教大学(2012-12-02)
(10)土居浩「民間信仰論と宗教生活学との懸隔―高取正男を読み直す―」日本民俗学会談話会・京都民俗学会年会共催シンポジウム、佛教大学(2012-12-02)
(11)土居浩「近代火葬論再考」日本宗教学会第 73 回学術大会、同志社大学(2014-09-13)
(12)真鍋昌賢「1930 年代のメディアと口頭芸」昭和文学会招待講演、横浜国立大学(2014-05-09)
(13)真鍋昌賢「1930 年代のメディアと口頭芸」昭和文学会第 56 回研究集会、横浜国立大学(2015-05-09)

〔図書〕（計 10 件）
(1)民俗学事典編集委員会編『民俗学事典』頁 800（高木史人 612－ 615、飯倉義之 526－527,530－531,534－535、土居浩 518－519,552－553、真鍋昌賢 634－635)、丸善出版(2014)
(2)小松和彦・常光徹・山田奨治・飯倉義之共編『日本怪異妖怪大事典』頁 658、東京堂出版(2013)
(3)末木文美士・馬淵昌也・鎌田東二・三橋順子・西平直・西田知己・松尾剛次・高橋文博・川村邦光・頼住光子・竹村英二・冲永宜司『岩波講座 日本の思想 身と心 第 5 巻』頁 328（川村邦光 265-292)、岩波書店(2013)
(4)中山太郎・川村邦光『売笑三千年史』頁 720（川村邦光 690-701)、ちくま学芸文庫(2013)
(5)安井眞奈美編『出産の民俗学・文化人類学』頁 368（川村邦光 192－194）
(6)川村邦光『弔いの文化史 日本人の鎮魂の形』頁 320、中公新書
(7)深町英夫・三浦顕一郎・山泉進・愼蒼宇・

白石昌也・有山輝雄・谷川穣・吉澤誠一郎・康成銀・真鍋昌賢・石井剛・井上厚史・初瀬龍平・原田敬一・能川泰治・康成銀・川尻文彦・陶徳民・見城悌治・ 三ツ井崇『講座 東アジアの知識人 2 近代アジアの形成 』頁 364（真鍋昌賢 172-188)、有志社(2013)
(8)村上興匡・森謙二・西村明・土居浩・粟津賢太・孝本貢・鈴木岩弓・三木英『慰霊の系譜－死者を記憶する共同体－』頁 288(土居浩 127-158)、森話社(2013)
(9)大谷栄一他編『近代仏教スタディーズ』(土居担当部分「近代化する葬儀」)頁 298、法蔵館(2016)
(10)市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』(土居浩担当部分「墓参り」、頁 336、ミネルヴァ書房(2016)

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
高木史人（名古屋経済大学, 人間科学系, 教授）

研究者番号：70329845

(2)研究分担者
飯倉義之（國學院大學, 文学部,准教授）

研究者番号：70546689

(3)研究分担者
川村邦光（大阪大学, 文学研究科, 教授）

研究者番号：30214696

(4)研究分担者
菊地暁（京都大学, 人文科学研究所, 助教）

研究者番号：80314277

(5)研究分担者
土居浩（ものつくり大学, 公私立大学の部局等, 准教授）

研究者番号：20337687

(6)研究分担者
真鍋昌賢（北九州市立大学, 文学部, 教授）

研究者番号：50346152